

「あすなろ」便り

No.126

2022.11

発行：ミナクルあすなろの家
TEL:046-254-2005

*家庭教育講座 ～子どもの学びと居場所～学校に行かない選択をしたとき～



近年コロナの影響もあり不登校の子ども達がふえています。子どもの気持ちを大切に、焦らずに対応していくにはどうしたら良いのでしょうか。その子にあった育ちを考えていきましょう。このような趣旨のもと10月22日・29日土曜日に、ミナクルあすなろの家・座間市教育委員会の主催で講座が開かれました。1回目は大田隆人さん（臨床心理士・公認心理士・日々輝学園高等学校カウンセラー）をお呼びして、「学校に行かない・行けない子どもとどのように向き合っていけば良いのか」ということを、お話して頂きました。

不登校の理由は様々あり子どもによって違いがあるが、社会的な理由として、授業や社会構造の形態の魅力が低下し子ども達に無理がおきているのではないか、また大きな自然災害やコロナ感染等が社会不安になっているのではないか。

その不安感を親が感じておりその気持ちを子どもに向けてしまう事もあるのではないか。世界の国々の子ども達の中で、日本は圧倒的に孤独感を感じている子どもが多いということです。特に、夏休み明けに向けて不安感が強くなる子どもが多くなります。やる気を失い孤独感に苛まれる子ども達にどう対処したらいいのか。その気にさせるには「あなたならできる・なれる」と聞かせることが、適応的な思いにつながる言葉かけが大切です。大事な事は自信を失わせないこと・「まあ、やってみるか・・・」という気持ちを創ってもらう事です。大田先生のこのお話が参加された方々にしみじみと伝わっていったのではないかと思います。

*家庭教育講座第2弾

～子どもの居場所 ～学校に行かない選択をしたとき～

市内の子どもの学びの場や居場所の情報と、不登校経験者の皆さんに話を聞いてみます。前半は座間市内の学びの場や居場所の情報と神奈川県や座間市の相談窓口についての情報を発表しました。そして、後半は不登校経験者の皆さんにその時の思いや克服していった経緯等を話してもらいました。



不登校になったきっかけやそんな時どんな気持ちだったか、当事者の皆さんにとっては辛い事だったと思いますが、当時を思い出して素直に話してくれました。保護者として出席して頂いたAさんは、お子さんが発達障害を抱えてご苦労をされてきましたが、今はお子さんも成長して心身も落ち着いているということでした。2人の青年も原因も環境も違いますが、自分の思いを周囲の人達になかなか理解してもらえない辛い時を過ごしてきました。そんな時に「あすなろの家」の活動に参加して、周囲の人達の暖かい雰囲気にもまれて、心がほぐれていったということでした。そして、二人の青年達はその時の自分を客観的に見つめて話してくれたことは、二人とも将来についても自分の道を見つけてくれると思います。